

カブトムシの飼育

伊達市立富野幼稚園（福島県伊達市）

[4・5 歳児]

近くの農家からいただいたカブトムシの幼虫を、個々の観察ケースで飼育する。廊下に壇を作って観察ケースを置くと、それぞれに注意深く観たり世話をしたりしながら気付いたことを伝え合うようになる。



土の中に大きな穴を見つけたK児
「穴でお家を作ったのかな？口で土が落ちてこないように固めているんだよ！」
土の上に出てきた幼虫を見つけたN児
「暑いよ～って出てきたんじゃない？土の中は、あったかいから」
幼虫をじっと眺めていたY児
「何でピカピカ光っているの？きれいだね！」

図鑑で糞のことを調べ、土を食べて土の上で糞をすることや、きれいな土と交換する必要があることを知り、糞取りや新しい土入れが始まった。

さなぎになっているのを発見！



毎日のように図鑑と飼育ケースに向き合い、さなぎになることを楽しみに待っていたD児が、穴の中で幼虫が茶色くなってきたことに気付いて、
「カブトムシがさなぎっぽいよ！ね、ね、さなぎっぽいでしょ！」「茶色いね！すごいね！」
図鑑と見比べながら、
「もう少しだね、もう少しでさなぎになるんだよね！」

M児：「どうして赤くなったんだろう？」
D児：「あのね、さなぎになったんだよ！あのね、こうやって（体で表現する）脱いだんだよ！幼虫の服をこうやって脱いだんだよ！」
さなぎになった喜びを目をキラキラさせて、体いっぱい表現する。

白いさなぎを発見！



A児の幼虫が真っ白できれいなさなぎに変化しているところを発見。皮を脱いでいく様子も見る事ができた。

「体、くねくねして皮を脱ぐんだね」
「白いね」「真っ白だ！」
「Yちゃんのは茶色いさなぎなのにどうして？」
「背中が幼虫みたいだね（腺がある）」
「角があるから、男の子だね」



黒くなったカブトムシ



カブトムシを出したい！

「カブトが黒くなった！」「すごいね！真っ黒だ！」
「もう、カブトになったんだね」
「（土から）どうやって出てくるのかな？」

成虫が土の上に出てくる様子はない。早く出してみたいと期待が膨らむ子どもたち。昨年一緒に世話をした1年生に来てもらい、カブトムシが黒く成虫になった姿を見せ、もう出してもいいか聞いてみる。

昨年したこと（早めに出して、死んでしまった経験）を思い出せるように話を引き出すと、「そうだった…。みんな、もう少し待ってみて。自分で出てくるから」と1年生。そして「自分の力で出てくるまで待ってみよう！」ということになった。



自分の力で 出てきたよ！

観察ケースに、一匹のオスの成虫を子どもが発見する。
 子：「すごい！かっこいい！」
 Y児：「自分の力で出てきたんだね！」
 T：「本当だね。カブトムシってすごいね。自分で出てこれるんだね。出さないで待ってて良かったね」



卵を産ませたい！

A児：「オスとメスを一緒に入れて、卵産むのを見てみたいな」
 M児：（図鑑で調べながら）「オスとオスを入れると喧嘩するけど、オスとメスは喧嘩しないんだって」

オスとメスをケースに一緒に入れる。夕方、交尾をしていたところを写真に撮り、子どもたちに見せる。

「好きになったんじゃない？」「卵が産まれるね」
 「じゃあ、餌をいっぱい入れてあげよう」
 「メスは、卵産んだら死んじゃうんじゃないかな？」



死んじゃった・・・



カブトムシが2匹死んでしまった。もうすぐ夏休みなので、園にいる生き物をどうするか話し合う。

T：「他の元気なカブトムシはどうしようかね」
 S児：「お家に帰してあげるといい。カブトムシは木がいっぱいある所がいいんだよ」
 M児：「俺は絶対いやだ！俺は家に持って行って世話をするんだ！」

夏休み明け。あれ程カブトムシを逃がすことに抵抗を示していたM児が、母親のさりげない言葉に心が動いた。「カブトムシを全部逃がすんだ！母ちゃんが言ってたんだ。箱の中で死ぬより、広くて大好きな木がある所で死んだ方がいいって。だから逃がしてやるんだ」



卵発見！



オスとメスが入っていた観察ケースを開けて土の中を見してみると、そこにとてもきれいな卵を見つける。

「これ、卵なの？」「だからメスは死んだんだね！」
 「メスは頑張ったんだね」
 「餌を食べて、卵産んで、また餌を食べて、卵産んで、繰り返したんだね」



糞がいっぱい・・・？ 幼虫・・・！！



A児：「カブトの幼虫だ！何でだ？」
 Y児：「そうか！卵から産まれたんだ！」
 T：「この幼虫はどうなるの？」
 Y児：「カブトになるよ！」
 M児：「そしてまた卵を産むかもしれないな」
 A児：「そうだよ！卵産んで、またカブトムシになって、また卵産んで、カブトムシになって...幼稚園、カブトムシだらけになるかもね！」
 T：「本当だね。命って続いていくんだね」
 A児：「そうだね！ここは生き物王国だから！！」

みどころ

子どもの言葉、会話に視点を当ててみることで、たくさんの気づき、驚き、疑問、予測など、子どもの心が動いていることがよく分かります。幼虫から新たな卵の誕生までの長い期間をかけて生き物と過ごし、その状況に合わせたかわり方を模索することで、命の尊さ、遅しさ、はかなさを感じ取っています。これは「科学する心」の根底にある、様々な命との共生やその大切さを幼児期に育む体験になっています。